



明石市立
文化博物館

文化博物館だより 第238号

2008年10月21日

みなさん、こんにちは。10月といえば衣替えの時期ですが、まだ半袖も活躍しそうな気候ですね。

● 10月18日、特別講演会

ドーム展開幕から22日目、ちょうど会期の真ん中の18日（土）に特別講演会が行われました。

講師の池田まゆみ先生は、長野県にある北澤美術館で図録作成のお仕事をされるなど、ガラスの美術品についての専門家です。

「ドーム・フランス伝統産業の創造性」と題して、ドームが創業するまでの時代の流れや歴史的背景をわかりやすくお話してくださいました。



講演会の様子

そのほかにも、ドーム家の人々の紹介やパート・ド・ヴェールなどガラスの製法についても、お話がおよびました。大量生産が難しく、途絶えてしまったパート・ド・ヴェールは、2階の展示室でご覧いただけるような、近年のドーム作品に再び用いられて、その美しさの元になっている技法です。技法の名称は、現在では、「パート・ド・クリスタル」と呼ばれますが、過去に同じ製法で作られたものが、1階に1点だけ展示してあります。



「ペーパーウェイト花と蜂」
(左下)

池田先生は、「何もわからずに見ると、寝ぼけたような印象を受けますが・・・」と前置いて、周囲の花弁の色に濃淡の違いをだすなど、細やかに観察すると非常に手間のかかった一品であることを教えてくださいました。

講演会の終了後は、展示室へ向かう参加者の姿が見られましたが、さまざまなお話を聞いた後の鑑賞は、より深くより楽しまれたのではないのでしょうか。

気候は暖かくても、身体は「食欲の秋」を感じてしまう午後4時過ぎ頃。空腹と戦いつつ、作成した「文化博物館だより」です。